

音楽の都 ウィーン・フィルの団友による夢の共演

ウィーン・アンサンブル VIMCA 静岡公演



フルート	第一ヴァイオリン	第二ヴァイオリン	ヴィオラ	チェロ
ウィーン国立歌劇場管弦楽団/ ウィーン・フィル団友 マティアス・シュルツ Matthias Schulz	ウィーン・フィルハーモニー 管弦楽団 パヴェル・クツミシェフ Pavel Kuzmichev	ウィーン・シュトラウスフェスティバル オーケストラコンサートミストレス シーラ・エプシュタイン Shira Epstein	ウィーン国立歌劇場管弦楽団/ ウィーン・フィル団友 マティアス・ヒンク Matthias Hink	ウィーン・フィルハーモニー 管弦楽団 ヴォルフガング・ヘルテル Wolfgang Härtel

2027 2/7 日

会場 静岡音楽館AOI 8階ホール

公演 開演 15:30 (開場 15:00)

チケット 全席自由1枚4,000円
未就学児入場不可

J.ハイドン：弦楽四重奏曲第77番「皇帝」op 76-3

J. Haydn : Streichquartett Nr.77 "Kaiser" op 76-3

W.A.モーツァルト：フルート四重奏曲二長調 K285

W.A. Mozart : Quartett für Flöte und Streichtrio K285

F. クライスラー：愛の喜び ほか

F. Kreisler : Liebesfreud



世界が称賛するウィーン・アンサンブルVIMCAによる静岡公演が静岡音楽館AOIで実現します。ぜひお誘いあわせの上、御鑑賞ください。静岡市内の弦楽合奏部等と出演者との演奏交流も予定しています。皆さまと共に「音楽の都ウィーンの響き」を体感できることを心から楽しみにしています。

静岡市長 難波 喬司

主催：ウィーン・アンサンブル静岡公演実行委員会

共催：静岡市 後援：静岡市教育委員会・オーストリア大使館・オーストリア文化フォーラム東京

協賛：**A アイワグループ** 大和ハウス工業株式会社 **PAO** 株式会社ピーエーシー

協力：(一社)ウィーン国際音楽文化協会

ウィーン・アンサンブルVIMCA静岡公演の収益金は、文化芸術や福祉活動を行う団体に寄附いたします。

※病気等の都合でやむを得ず来日メンバー等に変更が生じることがありますので、予めご了承ください。



ON
STAGE
SHIZUOKA
まちは劇場

vima

Vienna International Music Culture Association

※Vienna International Music Culture Associationの略になります。

■ ウィーン・アンサンブル VIMCA

ウィーン・フィルをはじめ、ウィーンを代表するオーケストラのトップメンバーによるアンサンブル。古くからの音楽仲間達による弦楽四重奏団とフルートによる特別編成のアンサンブルで、モーツァルトからヨハン・シュトラウスまで本場ウィーンの一流の息の合った演奏とパフォーマンスを披露します。



【第一ヴァイオリン】パヴェル・クツミシェフ ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

芸術家一家に生まれ、6歳から故郷のキーウでヴァイオリンを始める。1987年から1994年まで、モスクワ音楽院中央音楽学校でS.ベズロドナヤ教授にヴァイオリンを師事。1994年、有名なモスクワ・チャイコフスキー音楽院でM.グレザロヴァ教授に師事、1999年にM.フェドトフ教授の門下生として卒業。1999年にオーストリアに移住後、ウィーン国立音楽大学でG.ピヒラー教授(アルバン・ベルク四重奏団の第1ヴァイオリン奏者)に師事。ロシアとオーストリアの「シュテファニー・ホール」コンクールで優勝。2003年から2004年までヘルベルト・フォン・カラヤン財団から奨学金を授与された。近年、ソリストとして、また室内楽奏者として、ヨーロッパの主要な舞台で大成功を収めており、数多くの著名なアーティストやアンサンブルと共演している。2004年よりウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のヴァイオリニスト。

【第二ヴァイオリン】シーラ・エプシュタイン ウィーン・シュトラウス・フェスティバルオーケストラコンサートミストレス / ソリスト

7歳でヴァイオリンを始め、2002年にロンドンのパーセル音楽院に奨学金を得て入学し、英国王立音楽大学に合格。2016年、ウィーン市立音楽芸術私立大学修士課程を優秀な成績で修了。ロンドン・フィルハーモニー管弦楽団基金やバレンボイム＝サイド財団など、いくつかの奨学金やコンクールを受賞。セヴンオークス・ヤング・ミュージシャン・オブ・ザ・イヤー・コンクール等で第1位。ダニエル・バレンボイム指揮ウェスト・イースタン・ディヴァン管弦楽団とグスタフ・マーラー・ユース・オーケストラのコンサートマスターを務め、オーケストラでの経験を積む。ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のオーケストラ・アカデミーでコンサートマスターを務めた。ウィーン国立歌劇場とウィーン・フィルハーモニー管弦楽団と期間契約を結んでいる。2015年から2022年にかけてウィーン・フォルクスオパーの第1ヴァイオリン奏者兼第1ヴァイオリン首席奏者を務め、シュトラウス音楽祭管弦楽団コンサートマスターを定期的に務めている。リサイタルではオーストリア国営放送で生中継され注目を浴びている。



【ヴィオラ】マティアス・ヒンク ウィーン国立歌劇場管弦楽団 / ウィーン・フィル団友

ウィーン国立音楽大学、グラーツ国立音楽大学及びウィーン市立音楽院でヴァイオリン及びヴィオラを専攻し首席で卒業。卒業と同時に入団試験に合格。学生のころからグスタフ・マーラー・ユーゲントオーケストラ、PMFオーケストラ、ウィーンの主要なオーケストラで演奏し活躍。多くのフェスティバルに出演しソロや室内楽活動でも将来を嘱望されている。ソリストとしても父親で34年間ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団コンサートマスターを務めた故ウェルナー・ヒンク氏と共にモーツァルトの協奏交響曲等で演奏している。日本へはウィーン・フィル日本公演や指揮者の佐渡裕氏からの依頼で首席奏者として来日するなど日本でのファンも多い。

【チェロ】ヴォルフガング・ヘルテル ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団

7歳でグラーツの音楽院でレッスンを受ける。16歳でグラーツ国立音楽大学に編入しA級取得後、ウィーン国立音楽大学でヘルツァー教授に師事し、2001年にウィーン国立音楽大学を優秀な成績で卒業。在学中、グスタフ・マーラー・ユーゲント・オーケストラ、ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団、ウィーン国立歌劇場等で演奏した。1998年にウィーン・フォルクスオパーのソロ・チェロ奏者としてデビュー。室内楽ではウィーン・フィルの弦楽四重奏団「シュトイデ・カルテット」のチェリストでもある。2019年9月からウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のアカデミー生を指導。2003年よりウィーン・フィルハーモニー管弦楽団のチェリスト。個人所有のチェロは1807年マルティン・シュトス作。



【フルート】マティアス・シュルツ ウィーン国立歌劇場管弦楽団 / ウィーン・フィル団友

ウィーン国立音楽大学にて父親でありウィーン・フィル首席フルート奏者故ヴォルフガング・シュルツ教授の元で学ぶ。数多くのコンクールで優勝。ザルツブルグ音楽祭、ザルツブルグ・モーツァルト週間等に出演し、ソリストとしてはウィーン・トーン・キュンストラ管弦楽団、ザルツブルグ・モーツァルテウム管弦楽団、リンツ・ブルックナー管弦楽団、ウィーン室内管弦楽団、新日本フィル等と共演。室内楽では数多くのCDがリリースされている。ヨハン・シュトラウス二世が設立されたウィーン・ヨハン・シュトラウス管弦楽団首席奏者も務めている。オーストリアフルート協会会長。ウィーンのオーケストラを担う若いソリストと達により結成されたパオレ・ウィーン木管五重奏団のリーダー。2026年オーストリア政府よりプロフェッサー(教授)の称号を授与する。